

# 日本童話を多く聴かせたい

馬淵冷佑

ぶお話に轉じて來たのだこいはれてゐる。

童話は廣義に考へるこゝ、笑話・寓話・お伽噺・傳説・神話・史話・現實話等、兒童の喜ぶ一切の物語を總括するのであるが、普通はこれを狹義に解してお伽噺そのものをいふやうである。幼稚園から小學校の幼學年へかけての物語教材は、お伽噺が大部分を占めてゐると思ふから、かたゞこゝでは狹義の童話——お伽噺として述べようと思ふ。

元來童話は民族の喉から湧出た空想的な聲であつて、民族の心持が期せずして物語に凝集したもの、いはゞ集團情緒の噴水のやうなものである。その發生當時においては、超自然的靈物を中心としたり隨處に出現させたりして、これに信仰的氣分を寄せたのであるが、時代の推移につれてその氣分が消失して、今日では全然空想となり、兒童の喜

ぶお話に轉じて來たのだこいはれてゐる。童話は全部空想的事件で埋められ、活動性や複雑性や變化性に富んで、その上反復が多いこゝいふ特質を持つてゐる所から、多大の憧憬と愉悅を兒童に與へるのであるが、童話には又文學的要素が多分に盛られてゐるこゝも見逃してはならない。これらについても少し述べたいのであるが、本題に入るこゝを急ぐために、省略するこゝをさす。

たゞ童話の定義であるが、私は今にそれを表す適確な言葉を知らない。童話學者もこれを困難として明確な定義を與へてゐないやうである。で私は通俗的ではあるが、童話學者が定義を下してくれるまで、

童話は兒童の喜ぶ無邪氣な架空的物語である。こゝに假に定めてをる。これで一通りは通ずると思ふ。

以上は一般的な童話についてのほんの大體の觀察であるが、これから本題に入つて、少しく私の考へてゐる所を述べさせてもらはうと思ふ。私は、幼稚園から小學校の幼學年へかけて、殊に幼稚園では日本童話を多く話し聽かせることを希望する一人である。

日本童話が全體泰西童話と同じく、幼童に喜ばれる特質を持つてゐることは、童話研究家の間にも認められてゐるのであるが、日本童話はその上に世界に優越した日本精神を反映してゐることを深く考へなければならぬ。祖國意識が蘇つて盛に日本精神の本質が究明されつゝある今日、幼童の指導者として日本童話を再認識することの必要を一層痛感するのである。

日本童話といつても、純粹に祖國から發生したものの外に、印度あたりから渡來したものもあるやうである。然しこれらの童話も、幾百年の星霜を経過した間には、すっかり日本化されて日本精神の浸潤を受けてゐるのであるから、やはり日本童話と言ひ得るのである。

日本精神の根本的要素は、夜明の氣分——夜が明離れて一點の曇もなく、晴れくした、清らかな、朗らかな、明るい爽やかな氣分で、然もぼうつゞい櫻の花が色づいたほぎの色合をもつてゐる。本居宣長が

敷島の天和心を人間はば

朝日ににほふ山櫻花。

と詠じ、畏れ多くも明治天皇が

さし昇る朝日の如く、さわやかに

もたまほしきは心なりけり。

と御歌ひになつたのは、最もよく日本精神を發揮したものだと言はれてゐる。約言すれば「清明」又は「明かき心」、この心持が日本精神の根本であつて、これが變相していろいろな心持を顯現するのだと聞いてゐる。

日本童話の内容を仔細に研精するに、この尊むべき日本精神がさまざまに變化して一つ一つの童話に浸潤してゐるこゝが發見せられ、永遠的な心持が自然に感じられて來るのである。

試みに日本五大噺の中に數へられてゐる「桃太郎」「猿蟹」

「花咲爺」について考へてみる。「桃太郎」は桃太郎それ自身が日本精神の象徴である。平和の目的を以て、日本へ仇をしに來る鬼が島の鬼ごもを退治に行つた進取の氣象、犬・猿・雉に日本一の黍團子を與へた慈愛、仲の悪い犬と猿を懷けて融合させた徳化力、鬼の巢窟に飛込んで、鬼を闘つた剛勇、鬼ごもが降参したら、直ちにその罪を許した寛容、その精神において行動において、少しも間然する所がない。桃太郎は日本精神を象徴する偉大な架空的人物だといつてよい。桃太郎に縁りのあるさいふ愛知縣大山に、有志の人たちが「桃太郎誕生之地」の碑を建て、桃太郎を思慕するものも謂はれのあることである。

「桃太郎」は侵略主義だとかミリタリズムだとかいつてその内容を批難するものもあるが、現代の「桃太郎」にはそんな心持は毛頭ない。實に桃太郎は平和の主唱者なのである。桃太郎が寶物を持つて凱旋したのは、鬼ごもが命を宥してもらつたお禮に差出したのを受けたまでのことで、掠奪したのではなかつた。

「猿蟹」は從來復讐の心持に解されてゐたが、今日では社

會的制裁の意味に考へられて來てゐる。若し子蟹が一人で猿の首を齧み切つたことすれば復讐の意味にならうが、人家からは白、里からは蜂、山からは栗、海からは昆布と、各方面からの代表者が集つて鳩首凝議したところから考へると、復讐といふよりも寧ろ社會的制裁の意味に考へるのが至當のやうに思はれる。この意味の解釋が有力になつた結果、一時時代錯誤として國民生活から遠ざからうとしてゐた「猿蟹」が永遠の生命を附與せられたことになる。

澁い青柿を投げつけて蟹を殺した猿は、日本精神から脱線した平和の破壊者であり、子蟹に同情して義憤を起した白と蜂と栗と昆布は日本精神の象徴である。「明かき心」の持主が集つて、慘虐を敢へてした暴行者を死罪に處して平和を恢復した所に深い意味がある。

「國定新讀本」に出てゐるサルトカニは、錐廼宇計木(梅辻規清)に據つてその筋を幾分變へてある。蟹が猿に青い柿を投げつけられて大怪我をしたので、白と蜂と栗が相談の結果猿を懲らすことに決し、猿を蟹の宿に呼んでうんち苦しめた後、蟹が猿の首を齧み切らうとした土壇場に、猿は前

非を悔いて謝罪した。そこで蟹がその罪を宥し、元の平和に復したこゝになつてゐる。これによるこゝ、猿は日本精神から脱して再び日本精神に立返つたこゝになる。

「花咲爺」は因果の關係を暗示した説話のやうに思はれる。慈悲のお爺さんご強慾なお爺さんが現れて、慈悲のお爺さんは飼犬を我が子のやうにかはいがるし、強慾なお爺さんは慾の爲には亂暴な行爲も敢へてするのである。この性格の反した二人のお爺さんが、蟲ご曰ご枯木の三段に互つて正反對な行動をして、慈悲のお爺さんは善い結果を、強慾なお爺さんは悪い結果を得たこゝになつてゐる。

これを日本精神から觀るこゝ、慈悲のお爺さんは「明かき心」の持主で、強慾なお爺さんは「黒き心」の持主である。日本精神の「明かき心」が輝いて、日本精神から脱線した「黒き心」が影を潛めたものご見られる。

かやうに日本童話は、「黒き心」のものが出て活動を始めるこゝ、おきまりのやうに「明かき心」のものが現れてそれを制するか、でなければ自然ご「明かき心」のものが榮えて、「黒き心」のものが衰へるやうに機構されてゐる。決して月

並式の教訓ではないのである。

更に日本童話は「清明」の心持からお話ご自然ご統一して核心が輝き、少しも不要な事件を混入してゐない。これも世界に誇つてよい點である。日本童話が泰西のに比して淡白で素朴である所なごも注目すべき點であらう。それから表現形式を見ても、それごお話の筋に應じて對立・循環なご特殊の形式を具へてゐて、泰西の童話に劣つてゐるごは少しも思はれない。

以上述べた所から、私は幼童の物語教材ごしては、日本童話を本體ごし、これを正しく話し聽かせて健全な日本人を養成するごに努むべきではないかご思ふ。もごより日本童話の外に、創作童話や外國童話も話し聽かせる必要はあらうが、これらは餘裕のある場合において補充ごして取扱ふべきもので、本體ごすべき性質のものではなからうかご思ふ。

然るに幼童指導期間中、さうかするご、創作童話や外國の童話は割合に多く話し聽かせるが、肝心の日本童話を等閑に附して、ろくご話し聽かせないで終る場合がないご

も限らない。たまに話し聽かせるこゝがあつても、杜撰に取扱つてしまつて、お話の筋や表現形式や言葉遣なごを充分に取扱はない場合も生ずると思ふ。斯くては尊むべき日本童話も漸次滅び行くか、よし傳はつても不完全な形にしか傳はらないであらう。そしてその結果は、遂に日本精神を體得するに至らずして、恐るべき思想問題を招來するこゝになりはしないか杞憂せられるのである。幼童指導の任に當るものゝ深く反省しなければならぬこゝである。

### 三

日本童話を話し聽かせるには、先づ代表的な日本童話の中から適當なものを選択して、その心持を表現形式を研精し、更にこれを如何なる言葉で以て話し出すかを工夫しなければならぬ。

幼童に適當する童話としては、

桃太郎 花咲爺 猿蟹 舌切雀 瘤取 鼠の嫁入

海月のお使 猫の草紙 文福茶釜

なごは動かぬこゝろであらうが、この外にも十數種ほど選擇したいものである。「世界童話大系」(日本の部)に百七

十四種の童話が出てゐるが、この中には笑話と傳説と神話が含まれてゐるから、これらを除去したお伽噺の中から選擇したら、適當なものが見出されるかも知れない。こゝに幼童の爲の童話教材選擇は、長い年月をかけて努力しなければならぬ問題であると思ふ。

いよく教材の選擇が終つたら、その一つ一つについて、これはどういふ心持のお話であるかを適確に考へなければならぬ。もよよりこの心持は幼童に理會させるべきものではないが、話者としては心得ておく必要があると思ふのである。愈々その心持が明瞭になつたら、更にこれを日本精神と照合して、日本精神の如何なる方面が表現されてゐるかを究めるまでに進みたい。

日本童話の表現形式には、反復・漸層・對立・循環等の諸形式があるが、これは繁雜になるから説明を省くこゝにする。

最後に述べたいこゝは、特に幼稚園では、お話するまゝを記録し、これを幾度もなく批評して推敲を加へ、所謂幼稚園話を完成するこゝである。幼稚園話は童話雑誌に時々見受けるが、まだ完全なものは出來上つてゐないやうであ

る。かうはいふものゝ幼稚園話の完成はなか／＼の難事であつて、小學校の幼年生に讀ませるお話をかくのまは赴を異にするに相違ない。が永い間かゝつて専心したらさつき成功するを信ずる。

幼稚園話が一つでも成功したら、話者はこれによつて豫めお話を修練し、幼童に對して幾度話し聽かせても、一句一語の末に至るまで同じやうに話せるまでに至ることを私は切望する。若しいくらお話を練習しても思ふやうに話せない場合には、お話の原稿をお話する通りに朗讀してもよいのである。幼稚園話ほもさ／＼幼童に對してお話するまゝをかいたものであるから、朗讀さへよければ、お話するさ少しも違はないこゝになる筈である。

慾をいへば幼稚園話は普通のお話の形式をまつたものゝ外に、例へば「桃太郎」や「舌切雀」を韻律的にして長い童謡の形に仕立てたものも望ましい。この種のお話がさ／＼こゝろ／＼に挟まれたら、韻律の愛好者たる幼童はこの上もなく喜ぶに相違ない。これは又一層困難な事業である。

お話をする際、美しい繪畫を合はせたり、上品な身振を

幾分したりする必要は、今更いふまでもない。

幼童は同じお話を時を隔てて幾度も要望するものである。その度毎に話者は正確な記憶によつて、前と同様に話し聽かせるやうにしたい。前に一度話しておいたからといつて、お話の筋を省略したり、概括的な言葉を使用したりしてはならないと思ふ。

### 葛原しげる氏新著

## 「童謡教育の理論と實際」

童謡作家たると共に童謡理論家たる葛原氏の新著は待望の裡に生れた。その内容の價値は更めて讚するまでもない。二十年來童謡道の巡禮者を以て任ずる著者、而して實に我國童謡界開拓者たる著者の教ゆるところを聽かなければならない。

(東京市京橋區横町隆文館發行)